



DATA 小児科

- 施設認定：日本小児科学会小児科専門医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設
- 主な対象疾患：発育・発達の問題、先天性心疾患、不整脈、川崎病、甲状腺疾患、成長ホルモン分泌不全症（低身長）、性腺機能不全症、糖尿病、肥満・高脂血症・高血圧、食物アレルギー、気管支喘息、乳児血管腫、尿路感染症、てんかん、発達障害、ネフローゼ症候群、位置的頭蓋変形症など



▲診療科

患者さんの「困った」に寄り添い 一人ひとりを丁寧に診察

当科は1956年の開設以来、子どもたちの成長と健康を見守ってきました。地域医療を担う総合病院の小児科として、「診察依頼にはできる限り応える」という姿勢で診療をしています。患者さんはさまざまな症状や困り事を抱えて地域の先生方の診察室を訪れると思います。そのような中、縁あって当院へご紹介いただいていることに感謝し、患者さん一人ひとりを丁寧に診察し、症状や経過に応じて地域の先生方と連携しながら、子どもたちの健やかな成長を見守っていきたいと考えています。

小児医療を巡る環境や社会的なニーズが刻々と変化の中で、その時々に対応できるよう努力を続けていますが、特に内分泌外来は、当科を代表する専門外来のひとつとなります。低身長や思春期早発、脳下垂体や副腎の異常など、子どもの内分泌疾患はさまざまなものがありますが、市川市の新生児マスクリーニングの内分泌検査で異常があると診断された場合、多くの場合当科を受診していただいています。また2018年には「市川市近隣にはアレルギーの専門外来が少ない」との声に応え、アレルギー外来を開設しました。



専門医が多数在籍していますが、専門分野に限らず、チーム一丸となって総合的な診療をしています。後列左から時計回りに阿部なつ医師、寺田谷紗希医師、魚野理沙医師、福島裕之医師、蜂屋瑠見医師

現代のニーズに応え「頭のかたち外来」を開設

赤ちゃんの頭の形に悩む 保護者の声に添えて

近年、日々診察する中で、保護者の方から多く寄せられていたのが、「赤ちゃんの頭の形」についてのご相談でした。他の子どもと比べて頭が大きいのではないか、頭の形に左右差があるが病気ではないか、という悩みに応えるためさまざまな検討や勉強を重ね、2024年1月に「頭のかたち外来」を開設しました。

赤ちゃんの頭が変形している場合に考えられる疾患として、稀ではありますが、先天性の「ずがいほうこうそうきゅうこう頭蓋縫合早期癒合症^{しょう}」が挙げられます。赤ちゃんの頭の骨のつなぎ目である「縫合」が通常よりも早く癒合することで頭の形が変形し、脳の発育や発達に影響を及ぼす疾患です。頭蓋縫合早期癒合症は手術治療の対象となりますので、診療連携をしている医療機関にご紹介しています。

頭の形を無理なく整える 「ヘルメット矯正治療」

背景となる疾患がなく頭が変形している赤ちゃんの多くは、「位置的頭蓋変形症」です。乳幼児突然死症候群(SIDS)の発症を低くする取り組みとして1歳まであお向け寝が推奨されていることから、後頭部など同じ箇所にかかったまま寝ている赤ちゃんは少なくありません。頭蓋骨がまだやわらかい赤ちゃんは、このように同じ方向を下にして寝る癖(向き癖)があると、頭の形が

ヘルメット矯正治療 DATA

ヘルメット内側には低反発性のスポンジがついており、頭にやさしくフィットします。扁平となった頭の部分に空間を作ることによって望ましい頭の形への成長を促します。



治療開始月齢	生後2～3か月
装着期間	6～10か月間（大体1歳まで）
1日の装着時間	24時間中23時間（入浴時以外）
費用	自費診療 539,000円（税込）

子どもたちの健やかな成長を見守り、支える

小児科

変形したり、ゆがみが生じたりすることがあります。

ゆがみや変形の程度が小さい場合は、寝る向きを変えるなどの指導で効果が出ることもあります。しかし変形が大きい場合は、左右の耳の位置がずれたり、噛み合わせや体幹バランスに影響する可能性があるため、ヘルメット矯正治療の対象となります。



小児科医が丁寧に診察。頭の成長に応じてヘルメットの調整を行います。

生後2～3か月で始めるのが効果的

「頭のかたち外来」では、X線撮影や触診、計測などさまざまな検査を行い、頭蓋縫合早期癒合症など背景となる疾患がないかを確認します。背景となる疾患が見当たらず、変形やゆがみが大きな位置的頭蓋変形症と考えられ、保護者の方が希望された場合は「ヘルメット矯正治療」（自費）という選択肢があることをお伝えしています。

ヘルメット矯正治療は、オーダーメイドで作られたヘルメットを一定期間装着します。「矯正」といっても無理に形を変えるのではなく、速いスピードで骨が成長する時期を利用して、ヘルメットの助けを借りながら無理なく理想の頭の形に整えます。そのため治療開始には適切な時期があり、生後2～3か月が目安です。もし赤ちゃんの頭に変形が見られたり、頭の形に悩みを持つ保護者の方がいらしたら、できるだけ早めに当院へご紹介ください。「様子をみましょう」と先延ばしにしている間に、治療に適切な時期を逃してしまうことがあります。

治療中は月に1回ほど来院していただき、微調整を行います。途中経過は3Dスキャンなどで撮影し、理想的な形に近

づいているかどうかを確認します。子どもの体の専門家である小児科チームで丁寧に経過を診ていくことで、保護者の方に安心感を持っていただきたいと思います。

頭のかたち外来（予約制）

診察日：毎月第1・第3木曜日午後

* 出産された診療機関やかかりつけ医の方からの診療情報提供書をご用意いただくとスムーズに受診できます。

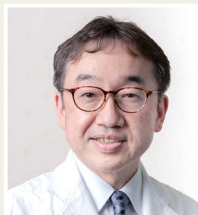
地域の皆さまと手を取り合い 質の高い小児医療を目指して

長く続いた新型コロナウイルス感染症の流行により、小児科の疾患構成も以前とは変わってきました。私どもも大変戸惑っていますが、地域の先生方も大変なご苦労があると思います。

新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いた今こそ、当院と先生方のつながりを取り戻す、あるいはさらに発展させるチャンスだと感じております。今後は勉強会の開催など、一緒に学んでいけるような場を設けていきたいと思っています。

日頃より、地域の先生方には紹介状に患者さんの診察経過などを丁寧に記載いただき、大変ありがたく思っております。その細やかな情報があるからこそ、当院での治療がスムーズに行えているものと感じております。今後とも子どもたちの健やかな成長をサポートするため、皆さまと協力して地域の小児医療に取り組んでまいります。

Doctor's profiles



小児科部長
医師福島裕之 Hirofumi Fukushima

出身地 広島県生まれ、関西育ち

趣味 音楽（特にジャズ、サックス演奏）
 と料理

医師になったきっかけ

人を相手にする仕事に就きたかったから



医師蜂屋瑠見 Rumi Hachiya

出身地 千葉県（両親とも鹿児島県出身なので、ルーツは鹿児島）

趣味 高校生の息子・中学生の娘と外食して、楽しく家事をサボること

医師になったきっかけ

生物の授業が好きだったから

医療機関の先生方へ

市川総合病院 初診事前予約申込書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、右記へお尋ねください。

患者支援センター 地域医療連携室

Tel 047-322-0151(内線2214) Fax 047-324-8539

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時

土曜日：午前9時～12時（第2土曜日は休診日）